# 取扱説明書

# B-280 PRE TUBE SOUND SYSTEM BASS AMPLIFIER

ALL HANDMADE AMPLIFIER

ALBIT®

ALL BASICS IN TUBE-SOUND TECHNOLOGY

この度はアルビット製品を、お買いあげ頂きまして誠に有り難うございます。

正しく御使用頂くために、御使用前に必ずこの取扱説明書をお読みになって、性能を最大限に発揮させ本物のサウンドをご堪能して下さい。

なお、お読みになられた後も保証書とともに大切に保存して下さい。

ALBIT CORPORATION

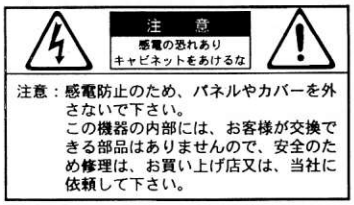
# ALBIT®

それは1985年に発表された初代B-200から始まりました。
爽快に自らのプレイで、ベストサウンドを醸し出すという、
ベースアンプの頂点を目指したそのアンプは、日本製のベ
-スアンプに、まったく新しい概念を誕生させました。
そのオリジナルティあふれるサウンドは、1996年に長年の
コラボレーションによって遂に完成した独自のProfessional
Bass - Amp"B-320N"を発表しました。
個性的という言葉では表しきれない、太く音像のクリアー
なサウンドを受け継ぎ、更にPre-AmpのHead-Amp回路
にEcc-83TUBEを搭載したそのサウンドは、新たに高級
アンプの頂点をきわめるベースアンプとして蘇ります。

# 安全上のご注意

※ご使用の前に、「この安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。

※ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくお使い頂き、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は、危害や損害の大きさと気迫の程度を明示するために、誤った取扱いをすると、生じることが想定される内容を「警告」「注意」の２つに区分しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。




| | |
|---|---|
| ⚠警告 | 誤った取扱いした時に、死亡または重傷を負う可能性があるもの。 |
| ⚠注意 | 誤った取扱いした時に、使用者が障害を負ったり、物的損害の可能性があるもの。 |

各種絵表示の内容

| | |
|---|---|
| | ⃠記号は,禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。 |
| | ●は強制（必ず、すること）を表しています。具体的な強制内容は●の中に描かれています。左図の場合は、「電源プラグをコンセントから抜くこと」を表しています。 |

## ⚠警告

| | |
|---|---|
| | 煙や異臭、異音が出たり、落下や破損した時はスイッチを切る。<br>そのまま使用すると、事故の原因になります。必ず使用を中止し、販売店に修理をご依頼ください。 |
| | 万一、発煙や機器内部に異物や水が入った場合は、本体のスイッチをきる。<br>そのまま使用すると、感電や事故の原因になります。必ず販売店にご相談ください。 |
| | 機器内部に燃えやすいものを入れない。<br>事故や故障の原因になります。 |
| | 電源コードが傷んだら（芯線の露出・断線）使用しない。<br>火災・感電の原因となります。 |
| | 風呂場では,使用しない。<br>火災・感電の原因となります。 |

## ⚠注意

| | |
|---|---|
| | 表示された電源電圧（交流100V)以外の電圧で使用しない。<br>火災・感電・破損の原因となります。 |
| | 電源コードを傷つけたり,加工したり、無理に曲げたり、ねじったり,引っ張ったり、加熱したりしない。<br>コードが破損して火災・感電の原因となります。 |

## ⚠警告

電源コードの上に重いものを乗せたりしないで下さい。又コードが本体の下敷きにならないようにする。
コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。

雷が鳴ったら、機器の金属部やプラグに触れない、また野外で使用しない。
落雷や誘導雷により感電・やけど・機器の焼損の原因となります。
使用しているときはすぐに機器から離れてください。

分解・改造等は、行わないで下さい。品質・安全等が、損なわれる恐れがあります。
事故やけがの原因となります。

## ⚠注意

油飛びや湯気のあたる場所には、設置・使用はしないで下さい。
火災・感電の原因となることがあります。

ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かない。
落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。

電源コードを熱機具に近付けない。
コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

異常に温度が高くなる所に置かない。
機器の変形・変質,火災・故障の原因となることがあります。直射日光のあたる高温の所には置かないでください。

湿気やほこりの多い場所に置かない。
火災・感電の原因となることがあります。

テレビ、オーディオ機器、スピーカー等の機器を接続するは、各々の機器の取扱説明書をよく読み電源を切り、説明に従って接続する。
接続は指定のコードを使用する。

電源を入れる前には音量を最小にする。
突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。

薬品、ほこり、高周波を発生する機器（テレビ、ラジオ等）のそばには設置・使用はしないで下さい。
火災・感電の原因となることがあります。

不快な程の大音量で長時間使用した場合、設定によっては、永久的な、難聴になる事も考えられます。
万一、耳に異常を感じた場合は、専門の医師に相談して下さい。

旅行などで長期間、ご使用にならないときは、必ず電源コードをコンセントから抜いておく。
火災の原因となることがあります。

お手入れの際は安全のため、電源プラグをコンセントから抜いて作業をして下さい。
感電の原因となることがあります。

# B－２８０ Strong Point

・プリアンプ部分にチューブとＩＣによる、ハイブリッド回路を採用しましたので、従来よりも更に、太く締まった輪郭のあるサウンドを醸しだします。
・ 3モードインプットの採用で、アクティブタイプやパッシブタイプの他に、後面にワイヤレス機器等の専用インプットを増設しました。
・チュナーアウトにチューナーを接続し、ミュートスイッチとの併用で、音を出さずにチューニングが可能になりました。
・±15dB可変可能な、オリジナルゲインコントロールとヘッドルームクリップLEDの採用で、楽器に合ったベストなゲインに設定できます。
・トーンコントロールとの併用で、スラップ時に威力を発揮するノッチコントロールを採用しました。
・オリジナル４バンドアクティブ型トーンコントロールの採用で、太くバランスの良い輪郭のはっきりした、クリアーなサウンドが飛び出します。
・プレゼンスコントロールの幅を更に広げる、ミッドレンジスイッチの採用でサウンドに最適なプレゼンス効果が、期待出来ます。
・マスターボリュームの採用で、PA送り等のセッティングを変える事なく、ステージ上のエンクロージャーの音量を自由にコントロール出来ます。
・僅かなクリップでも、素早く反応するクリップインジケーターの採用。
・サウンドのミュート状態が、ライオンの目に当たる部分のLEDの点滅で、確認出来ます。
・ディストーションチャンネルのミックスボリュームと、クリーンチャンネルのボリュームとの併用で、図太いディストーションサウンドを醸し出します。
・トーンコントロールの前後に、エフェクトループを装備していますので、エフェクターを、ベストな状態でコントロール出来ます。
・後面バランスアウトの出力が、ダイレクト・ラインにセレクト出来、ラインレベルコントロールにより出力レベルをコントロール出来ます。
・夜間の練習等に最適な、ヘッドホーン出力を装備しました。
・電源スイッチのON/OFF時に発生する、不快なノイズを大幅に低減しました。

# 各部の機能(フロントパネル)

INPUTS ・・・楽器を接続する入力端子で、PASSIVE側には、パッシブタイプのベースを
ACTIVE側には、アクティブタイプのベースを接続して下さい。

GAIN・・・ツマミがセンターの位置で標準のゲインになりますが、パッシブベースの場合、一般的に出力が低いため、ツマミをセンターより右に回し HEAD-ROOM CLIP の LED が点灯する直前にセットして下さい。アクティブベースに於ける調整方法は、パッシブベースとは逆の傾向になりますが、基本的な調整方法は同じく HEAD-ROOM C LIP の LEDが点灯する直前にセットして下さい。(クリーンチャンネル使用時のみ)
パッシブベースの場合、希に HEAD-ROOM CLIP が点灯しにくい事がありますが、全体の音量はボリュームとマスターボリュームで決定されますので差し支えありません。

VOLUME・・・プリアンプ部のボリュームで、音量を調整します。

NOTCH・・・コントロール脇のスイッチをプッシュし LED を点灯させる事により回路が作動します。このコントロールは、全体の特性から中域のみをカットするコントロールで、右に回すほど中域がカットされます。スラップ時、特に威力を発揮します。
中域がカットされる為、スイッチ ON/OFF 時に聴感上、多少音量差が目立ちますのでボリュームで補正して下さい。

TREBLE・・・高音域を調整するコントロールで、センターでフラットになり右でブーストし左でカットします。

H.MID.・・・中高音域を調整するコントロールで、センターでフラットになり右でブーストし左でカットします。

L.MID.・・・中低音域を調整するコントロールで、センターでフラットになり右でブーストし左でカットします。

BASS・・・低音域を調整するコントロールで、センターでフラットになり右でブーストし左でカットします。

PRESENCE・・・中高音域を更にブーストするコントロールで、右に回すほど強調されます。コントロール脇のスイッチにてブーストする帯域を選択出来ます。
ノーマルで中高音域を、プッシュする事により高音域が強調されます。

MUTE SW.・・・チューニング時等、スピーカからの音を消したい時にプッシュします。ライオンの目に当たる部分の LED が、点灯から点滅に変わります。

MASTER・・・全体の音量をコントロールするツマミで、各々セットアップされたレベルを変える事なく、エンクロージャーの音量を調整します。

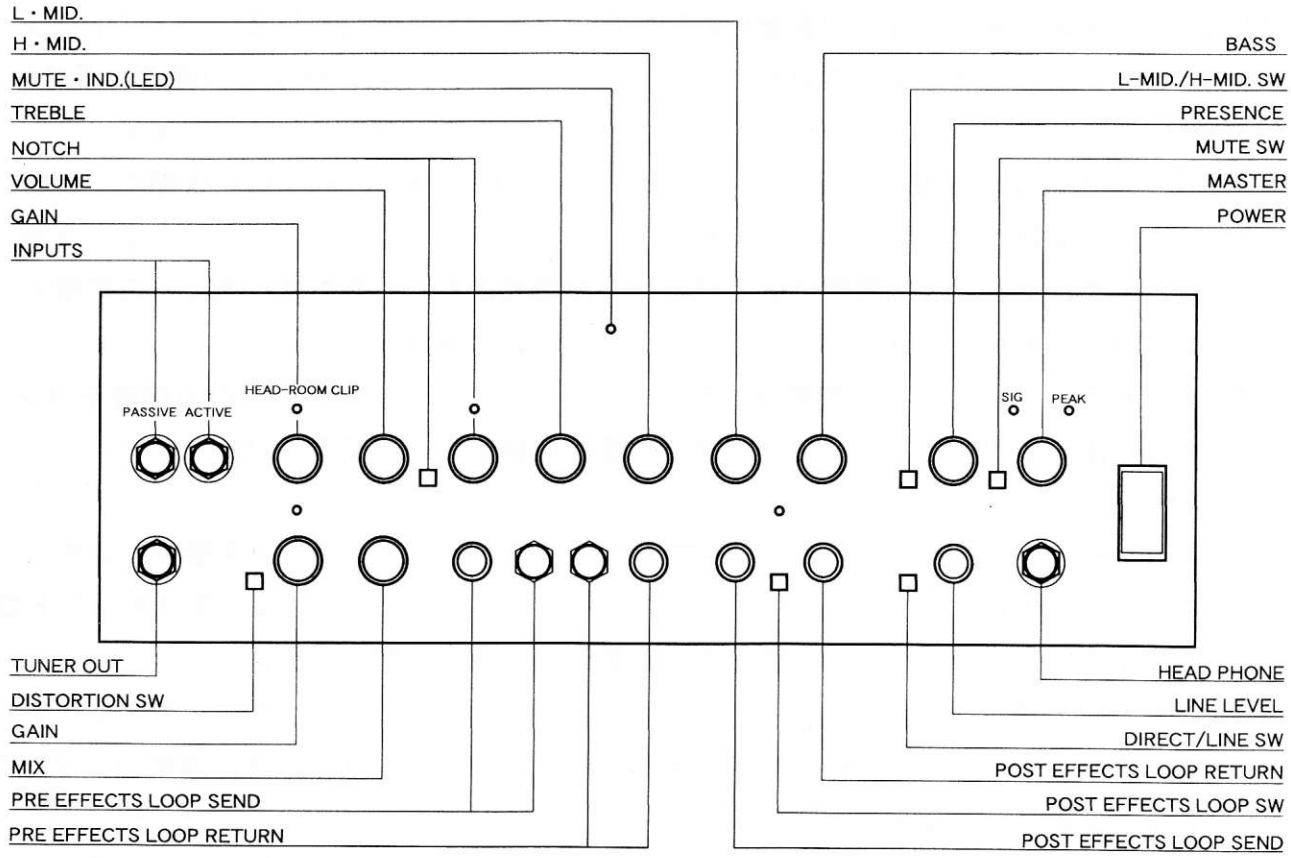
SIG.・・・インプットに接続された楽器の出力に反応して点灯します。

PEAK・・・パワーアンプのクリップ(歪み)が始まると点灯します。

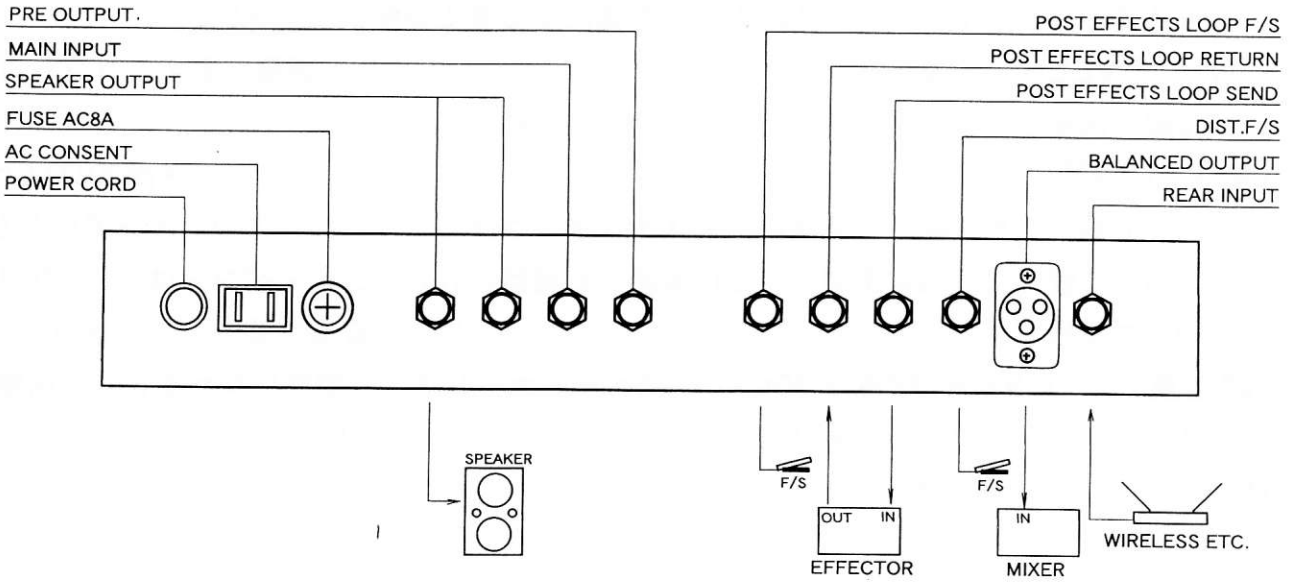
TUNER OUT・・・チューニングメーターを接続するジャックです。

DISTORTION SW・・・ディストーションチャンネルを作動させるスイッチで ON 時に、LED が点灯します。フットスイッチ使用時はこのスイッチを OFFにして下さい。

# FRONT PANEL




# REAR PANEL



GAIN・・・ディストーションの深さを調整するツマミで、右に回すほど歪みが強くなります。

MIX・・・ディストーションの音量を調整するツマミで、生音に対してのディストーションサウンドの含み具合を調整します。このコントロールはMINの位置で、予め5%のディストーションサウンドが、ミックスされる様にセットしてあります。

PRE EFFECTS LOOP(エフェクターを接続して全体の音づくりをした状態で、会場によって音質変える場合、従来の様にトーンコントロールの後にエフェクターが接続されていると、全体のサウンドバランスが崩れます。これを防ぐ為に、この部分のエフェクトループは、トーンコントロールの前に構成されています。)

SEND LEVEL・・・ここに接続されたエフェクターのインプット送られる信号をコントロールするツマミで、エフェクターが歪む直前まで上げて下さい。

SEND・・・エフェクターのインプットに接続します。

RETURN・・・エフェクターのアウトプットからの、シールドコードを接続します。

RETURN LEVEL・・・エフェクターのアウトプットから送られて来た信号をコントロールするツマミで、バイパス時と同じ音量になる様に調整して下さい。

POST EFFECTS LOOP(トーンコントロールの後に構成された、エフェクトループでコンプレッサーとか、比較的ノイズを多く発生するエフェクター等、通常のエフェクトループとして、使用して下さい。)

SEND LEVEL・・・ここに接続されたエフェクターのインプット送られる信号をコントロールするツマミで、エフェクターが歪む直前まで上げて下さい。

EFFECTS LOOP SW・・・エフェクトループを作動させるスイッチで、ON時LEDが点灯します。フットスイッチ使用時はこのスイッチをOFFにして下さい。

RETURN LEVEL・・・エフェクターのアウトプットから送られて来た信号をコントロールするツマミで、バイパス時と同じ音量になる様に調整して下さい。

LINE LEVEL・・・後部バランスアウト(キヤノン)のレベルを、調整します。コントロール脇のスイッチにてダイレクト又は、ラインに選択出来ます。

HEAD PHONE・・・ヘッドホーンを接続するジャックで、インピーダンスが30Ω以上のヘッドホーンを接続して下さい。又ステレオプラグによりバランスのラインアウトとしても、ご使用になれますが、ここに接続する機器の入力インピーダンスは、100Ω以上の物をご使用下さい。尚、ラインレベルコントロールにより音量を調整して下さい。

(御注意)・・・旧タイプの8Ω(30Ω以下)のヘッドホーンは、ご使用になれません。内部に負担が、かかり好ましくありません。

POWER・・・電源スイッチです。

## 各部の機能(リヤーパネル)

REAR INPUT・・・主にワイヤレス等の電子機器を接続するインプットです。
フロント側のインプットが優先します。

BALANCED OUT PUT・・・ローインピーダンスのバランス出力で、主にミキサー送り等に使用します。

DIST. F/S・・・ディストーションチャンネルのフットスイッチを接続するジャックで、単独のラッチタイプのフットスイッチを使用して下さい。

SEND・・・ポストエフェクトループのセンドジャックで、エフェクターのインプットに接続します。

RETURN・・・ポストエフェクトループのリターンジャックで、エフェクターのアウトプットからの、シールドコードを接続します。

F/S・・・ポストエフェクトループのフットスイッチジャックで、ラッチタイプのフットスイッチを使用して下さい。

PRE OUT・・・プリアンプ部の出力ジャックです。

MAIN IN・・・パワーアンプ部分のインプットで、ここにプラグインするとプリアンプ部は、切り離されます。

SPEAKER OUT・・・エンクロージャーのトータルインピーダンスが8Ωの場合は2本接続出来ますが、4Ωの場合は1本しか接続する事が出来ません。
スピーカ保護の為にもエンクロージャーの許容入力が、4Ωの場合最低でも400W以上、又8Ωの場合は、200W以上の物を使用して下さい。

AC 8A・・・電源ヒューズです。AC125V 8Aのものを使用して下さい。

UNSWITCHED 300W・・・電源スイッチと非連動コンセントで、300W以下の機器のみ接続可能です。

## 保証とサービス

保証書は販売店にて所定事項を記入してお渡し致しますので、内容をご確認の上大切に保管して下さい。保証期間は、お買い上げ後一年間の自然故障のみ対象となりますので御了承下さい。

破損及び消耗部品の劣化又は、付属品等の紛失については、保証対象外となりますので御了承下さい。

保証期間後の修理については、販売店又は当社に依頼して下さい。修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料になりますが、修理をさせて頂きます。

# 取扱い上の御注意

・電源コードは、アンプ背面のコード巻き金具より全部外してからご使用下さい。
・電源スイッチを OFF、マスターボリュームをゼロにしてから、スピーカコードをアンプ部とスピーカボックスに、完全に接続してからアンプの電源スイッチを ON にし、-各コントロールをセットアップして演奏を始めて下さい。
又、スピーカコードを取り外す場合は、マスターボリュームをゼロにしてから電源スイッチをOFFにし、スピーカコードを取り外して下さい。

・スピーカコードに損傷がある場合は、そのスピーカコードは絶対に使用しないで下さい。
又、スピーカコードのプラグ部分に、ガタ付きがある場合も絶対に使用せず、完全な物に交換して下さい。

・スピーカコードに、シールドコードでの代用はアンプの特性が著しく損なわれますので、絶対に使用しないで下さい。

＊以上アンプの故障原因になりますので、十分に注意し安全にご使用下さい。

## B-280 仕様

| | | | |
|---|---|---|---|
| 実効出力 | 280W/4Ω | 最大出力 | 520W/4Ω |
| 消費電力 | 125W | | |
| 重量 | 15kg | | |
| 寸法 | 482(W)*185(H)*377(D)m/m | | |

## 添付品

取扱い説明書*1
SP CORD 1m*1

*規格及び外観は製品改良の為、予告なく変更する事があります。

(有) ALBIT CORPORATION
〒340-0035 埼玉県草加市西町1382-3☎ 0489-28-1637 FAX 0489-22-5742